琉球大学学術リポジトリ

# タイ・チェンマイにおける日本人長期滞在者のライフスタイル型の移動とそのインパクト



| メタデータ | 言語: |
| --- | --- |
| | 出版者: 琉球大学 |
| | 公開日: 2017-03-17 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: Duangkaew, Sutpratana, ドゥアンケーオ, スットプラータナー |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/33727 |

様式第７号

# 学　位　論　文　要　旨

学位論文題目

タイ・チェンマイにおける

日本人長期滞在者のライフスタイル型の移動とそのインパクト

琉球大学大学院
人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号　138091F

氏　　名　DUANGKAEW SUTPRATANA

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数８００字程度）

21 世紀に入り、国際移動の一つである「長期滞在」、とりわけ先進国の人々が主に定年退職後に海外（特に発展途上国）での長期滞在が顕著になりつつある。本研究では、タイ国・チェンマイ県における日本人の長期滞在の実態を明らかにするとともに、その長期滞在を支援している中間組織の役割を分析する。さらに日本人長期滞在者は、現地のタイ人にどのようなインパクトを与えているかを明らかにする。

研究方法は、日本人対象者への 113 部のアンケートおよび 31 人のインタビューおよび、タイ人対象者への 129 部のアンケートおよび 51 人のインタビューの分析である。

まず日本人長期滞在者の実態を異文化社会への適応という視点で分析すると、①現地で長期滞在の経験が長いこと、②日本人のグループに参加すること、③タイ語のコミュニケーション能力を持つこと、④タイ人と交流があること、という 4 つの要素の中で社会関係資本が構築され、異文化社会においてスムーズな生活を送ることができているということである。その要素の中では「タイ人と交流があること」が最も多くの社会関係資本を構築することができ、タイ人と日本人の相互作用のために活用されていることが明らかになった。

チェンマイに滞在している日本人に対しては、日本政府・タイ政府（マクロレベル）、政府機関・組織・個人グループ（ミドルレベル）、日本人個人・タイ人個人（ミクロレベル）、の 3 つのレベルの関係性を構築するような支援が行われている。その中で、ミドルレベルの中間支援組織が最も重要であり、マクロレベルとミクロレベルの間に位置することで、政策が個人レベルに行きわたることが容易となり、また個人が政府への要求がしやすくなる。このように、中間支援組織は橋渡し型社会関係資本の機能を果たしている。

また、日本人長期滞在者の受け入れ側のチェンマイ社会に対するインパクトについては、現地の経済面、社会面、文化面、教育面、生活面などでは良い影響を受けているということが明らかになった。彼らは、生活費（家賃、食費、交通費など）で現地の経済を活性化する、タイ人と文化交流をする、タイ人学生に日本語や日本文化を教える、旅行や患者などの日本人客に関するサービスや就職が多様化する、のような事例が挙げられる。

ジャパナイゼーションが進行しているタイ社会では、タイ人回答者のほとんどが、日本製品を消費し、日本文化に関心を持ち、日本に対して良い印象を持っている。チェンマイに日本人長期滞在者がいることで、タイ人は日本製品（ハード面）と日本文化（ソフト面）に関心を持つだけではなく、日本人そのものまでも受け入れるようになった。これは、21 世紀の新たなジャパナイゼーションと位置付けることができよう。

長期滞在は、先進国の人々が主に定年後にセカンドライフとして海外などで生活を送るという現象である。人気のある目的地の多くは、タイのようにより安価、暖かいところである。生活の余裕ができ、体や心が健康になり、新たな人生の行く道を探るというライフスタイル型の移住の一つの方法だと言えよう。